

ボランティア便り

第3号 (年3回発行予定)

《第47回久留米市ボランティア・フェスティバル(ボラフェス) 今回のテーマ》

「みんなで作る子ども食堂 十居場所」特集》

2006年3月8日 日曜日 好天のもと第47回ボラフェスが長門石会場で開催され、約1000人ものボランティアと市民が交流を深めました。

今回のテーマは、昨年の「子どもの食支援」に続けて、「みんなで作る子ども食堂十居場所」です。ここ数年のインフレ、特に米を筆頭に食料品の高騰が継続し、重要性和緊急性が求められるからです。全国的には、子ども7人に1人が貧困状態にあると言われ、久留米市でも就学援助率が23%と高止まりしています。

特に今回は、体験型の子どもの遊びを充実させるため、会場となった屋上を含め福祉センター全体に数多く配置し、子どもたちが楽しく過ごせる工夫をしました。



ホナペティスタッフ
宮川 恵美 氏

子ども食堂ひだまり
幸田 優子 氏

ゆるっほ共同代表
戸次 真理子 氏

福祉会館のステージ(ヘクロストーク)

【みんなで作る子ども食堂十居場所】

進行役を務める迫田貴子さんは、福岡市博多区を拠点に活動するNPO法人「ドネルモ」は、2006年設立の地域活性化やコミュニティ創造を目的とした団体のメンバーです。活動として、地域の居場所づくりとして子ども食堂に関連する活動(ワークショップ等)を実施しています。

2つの子ども食堂と主に子どもがいる生活困窮世帯支援団体のホナペティの宮川恵美さんは、友達に誘われて参加し、「できるしこ」の支援活動をしています。

翌週末の3日に初めて、篠山校区で子ども食堂を計画している幸田優子さんは、福岡市からの最近の移住者で、不慣れな地で念願だった子ども食堂「ひだまり」を福岡の仲間と立ち上げようとしています。

久留米市内で「自分の責任で自由に遊ぼう」をテーマに、特定の活動拠点が無い子どもたちの居場所「遊び場「ゆるっほ」共同代表の戸次真理子さんは、現在はクルメウスとその近くの河川敷で川遊びなど幅広く子どもたちに遊びを提供しています。おもにインスタグラムとチラシで広報し、不登校児など参加しています。

登壇者間だけでの1時間のトークで、興味があって集まったフロアの聴衆とのやり取りがなく、物足らなかつた感もありました。



福祉センター（子どもの遊び場）

参加12団体・個人により、多彩な子ども遊びとプレゼントが提供され、終始賑わいました。特に今回、福祉センター3階屋上から舞い上がるフクフェスによる「大量のシャボン玉ショー」等は本当に圧巻でした。



立体ドミノ倒し（カブラ）



ステージ（ヒーロー撮影会・団体発表）

ローカルヒーローのドゲンジャーズの初参加で、撮影会には長い列が出来ました。中には遠方より駆けつけた「追っかけ」もいました。加えて、久留米市役所環境部の分別救助隊ワケルンジャーも登場。



分別救助隊
ワケルンジャー



ドゲンジャーズとの撮影会

福祉会館（展示・体験・販売）

参加24団体で福祉会館内にて、展示・体験・バザーと食品の販売／無料提供が行われました。会場はコーヒーとカレーの匂い充満。また、通路には団体別の久留米市内の子ども食堂（現在24カ所）と食料支援団体のパネル展示があり、子ども食堂・子どもの居場所提供・食料支援の各団体のノウハウが分かるようになっています。市内全46小学校区に広がって欲しいものです。

屋外（フードコートと地震体験車）

屋外飲食では、ポレポレ倶楽部むげん企画・BBS会の3団体による調理販売、及びキッチンカー8店舗から多種類のフードが販売され、参加者達は暗天下で舌鼓を打ちました。
 終了後、キッチンカーから実行委員会に、売上げの一部の寄贈がありました。子ども食堂居場所支援に活用します。
 久留米市消防署からは、地震体験と消火体験用に2車両が派遣されました。
 実行委員会の呼びかけで、家庭で余った食品を持ち寄るフードドライブには、昨年とほぼ同量の34kgが寄せられました。



フードドライブに寄せられた食品



定期総会・懇親会のご案内（予定）
 日時…5月15日金曜日 午前10時から
 場所…久留米市福祉センター2階大会議室